

令和3年度 江東区立なでしこ幼稚園 自己評価表

園長名 松岡 克恵

目標に向けた取組についての自己評価

重点領域 1		健康な心と体の育成			
項目	努力指標（教師側）	達成度	成果指標（こども側）	達成度	評語
1	・様々な体の動きができるような運動遊びを毎日取り入れ、幼児と共に遊びを楽しむ。特に「投げる力」を意識した活動を幼児の実態に応じて取り入れ様々な遊びを工夫する。	83%	・毎日、体を十分に動かして遊び、投げることを楽しめる幼児が95%以上になる。	85%	B
2	・日常生活の中で、立って靴を履く、雑巾がけ等教師が意識して保育に取り入れることで体幹、バランス感覚等を養う。	80%	・正しい姿勢で座る、姿勢を保って立つ、立って靴を履ける幼児が90%になる	79%	B
3	・家庭とも連携を図りながら、幼児の食に対する意識を高められるような工夫をする。	77%	・嫌いなものでも食べようとする幼児が80%以上になる。	77%	B
4	・感染症対策に努め幼児、保護者が安心安全に過ごせるよう換気、消毒、三密の回避等を全教職員が確実に実行する。	90%	・正しい手洗い、正しいマスクの着用等感染症にかからないための習慣が身に付く幼児が100%になる。	96%	A
<p><結果についての分析と改善策></p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な運動遊びを日々の保育の中で取り入れてきた。(朝体操・チャレンジタイム・一斉活動での工夫) 運動遊びへの興味・関心は個人差があるが、繰り返し体験できるようにしていくことが大切である。「投げる力」については教師が意識していかないと幼児の遊びの中からは出てきにくいので年間で計画を立てる等工夫が必要である。 ・毎日の靴の脱ぎ履き時に声をかけ立って靴がはけるようにしたり、大掃除の時に雑巾がけをしたりする等、体感を意識して保育を行ってきたが、体の動かし方や姿勢を保つこと等には個人差がある。家庭と連携を図ったり活動を工夫したりする必要がある。 ・食事に関しては保護者の意識の問題もあり、今後も取り組む必要がある。弁当参観などの工夫や食の講演会等行い、意識を高めていく必要がある。園で野菜を栽培し、それを食す機会や家庭と違う味に触れる機会は大変だった。今後も学級で野菜を育てたり食育の絵本を活用したりし、親子共に食に関する意識を高められるように工夫をする。 					

重点領域2		学びの基礎となる力を育む			
項目	努力指標（教師側）	達成度	成果指標（こども側）	達成度	評語
1	・幼児一人一人と信頼関係を築きながら実態に合ったわかりやすい指導を行う。	85%	・基本的な生活習慣が身に付いている幼児が95%以上になる。	92%	A
2	・就学前教育スタンダードを意識し、全ての幼児に幼児期に必要な体験ができるように環境、援助の工夫を行う。	82%	・試行錯誤しながらじっくり遊びに取り組み、充実感をもてる幼児が95%以上になる	80%	B
3	・教師自ら自然物、自然現象、社会事象等に関心をもち幼児の知的好奇心や探究心を高められるようにする。(幼児の刺激となるような言葉かけ、環境構成、遊びのきっかけ作り等)	80%	・様々なことに興味・関心をもって関わり、不思議さやおもしろさを感じられる幼児が95%以上になる。	85%	B
4	・日々の点検、毎月の安全指導、降園時パトロール、避難訓練等を確実に実行し非常時に対応できるように危機管理体制を整える。	96%	・安全指導、避難訓練の意味が分かり緊急時に適切に行動できる幼児が100%になる。	88%	B
<p><結果についての分析と改善策></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教師との信頼関係は概ね築けており、一人一人が安心して幼稚園で生活し遊びと遊んでいる。 ・基本的な生活習慣については個人差があり、身支度、片付け等課題のある幼児もいるが少しずつ変容している。ハサミの使い方、手先の器用さ等にも個人差があるので“やってみよう”と思える環境を整えながら体験を積み重ねていけるようにする。 ・一人一人“その子なりの”試行錯誤、じっくり遊ぶ、やりたいことを楽しむ充実感は味わっている。就学前教育スタンダードのすべての項目がみんな同じように達成できているかという点では、個々にばらつきがあるが、体験できたこと、課題として残っていることを小学校に向けしっかりと引き継ぐことが大切であると考え。 ・幼児が遊びの中で楽しんでいたり友達との関わり方など、教師が就学前教育スタンダードの視点を意識したことで、個の成長や学級の実態が見えやすくなった。 					

重点領域3		豊かな心情を育む			
項目	努力指標（教師側）	達成度	成果指標（こども側）	達成度	評語
1	・動植物に関心をもち教師自らが積極的に関わり、栽培したり、自然物を遊びに取り入れたりする。	87%	・動植物に関心をもち触ったり収穫したりすることで世話の必要性や可愛さ等を感じられる幼児が95%になる	91%	A
2	・人と関わる力が身に付くような遊びや活動を意図的・計画的に取り入れると共に幼児の友達関係を把握し適切な援助を行う。	84%	・友達との関わりの中で自分の気持ちの調整をし、人と関わる楽しさや協力して遊ぶ楽しさを感じられる幼児が90%になる。	85%	B
3	・遊びや生活の中で様々な感情体験ができるようにし、善悪の判断や道徳性の芽生えを育めるよう状況に応じて、幼児の心に響くような言葉を考えたりや指導方法を工夫したりする。	82%	・相手の嫌がることはしない、きまりを守ることができる幼児、状況を考えて動ける幼児が95%以上になる	83%	B

<様式1>

4	・幼児の実態や季節に応じた絵本を選び毎日読み聞かせを行う。年12回の絵本タイムのもち方を工夫し絵本に親しめるようにする。	93%	・絵本に親しみ、イメージの世界を楽しめる幼児が100%になる。	94%	A
---	--	-----	---------------------------------	-----	---

<結果についての分析と改善策>

- ・自分たちで植物を育て、ウサギの世話をする経験の中で、喜び・悲しみなど体験した。年長組はうさぎの世話を丁寧に行い愛着を感じていた。うさぎが弱ってからも最後の最後まで、一緒に時を過ごすことができた。一人一人の心の中に何らかの思いが残っているのではないか。
- ・人との関わりの中で様々な感情を味わっている幼児が多く、その中で、気持ちのコントロール、相手の気持ちに気づく、友達と一緒に活動する喜びを感じる等の体験を積み重ねている。年長組は意図的にグループでの活動を多く取り入れていったことで相談することや友達と一緒に一つのことをやり遂げる充実感を味わうことができた。相手の気持ちに気づきにくく、コミュニケーションを図ることが難しい幼児も数名いるので、家庭とも連携を図りながら引き続き丁寧な援助をしていく。
- ・毎週金曜日に絵本の貸し出しを行っているが、家庭でどのように扱っているかは十分に把握できていない。降園時に絵本の紹介をしたり貸し出し時の様子を保護者に伝えたりし関心をもってもらえるようにする。

重点領域4		教師の資質向上を図る			
項目	努力指標（教師側）	達成度	成果指標（こども側）	達成度	評語
1	・日々の保育を振り返り、実態の捉え方、幼児理解、援助について、毎日、評価・反省を行い、翌日の保育につながる手立てを考え実践する。	81%	・保護者アンケートの「こどもは幼稚園で好きな遊びや学級全体で行う活動を楽しんでいる」の肯定回答率を100%にする。	93%	A
2	・自分のよさや課題がわかり、得意なことを保育に生かしたり、苦手なことに向かって努力したりする。	80%	・学級全体の活動を楽しめる幼児が多くなり、教師が投げかけた遊びや活動に意欲をもって取り組める幼児が95%以上になる。	95%	A
3	・積極的に教材研究を行い、幼児の実態、イメージ、季節に合った教材を提示したり、遊びが充実するように援助したりする。	82%	・保護者アンケートの「教師は幼児の興味・関心を読み取り遊びがさらに楽しくなるように教材や環境作り、指導方法を工夫している」の肯定回答率が100%になる。	96%	A
4	・園内研究会、区幼研等で学んだことを実践する。幼児理解を深めると共に常に新しいことを取り入れ、挑戦しようとする意欲をもつ。	85%	・教師に受け入れられているという安心感をもち、一人一人が学級の友達に受け入れられ、自己発揮できる幼児が100%になる。	95%	A

<結果についての分析と改善策>

- ・日々の保育の振り返りは毎日行っているが、幼児理解、就学前教育スタンダードを意識した評価、反省は十分ではない。今後は幼児理解をさらに深め、環境の構成、遊びの援助、言葉がけ等の質を向上させられるよう努力していきたい。
- ・区幼研で他園の教師と保育を語り合うことで、客観的に保育を見直すきっかけになったり事例を取ることで保育をじっくりと振り返り、考察することに繋がったりしている。
- ・園内研では、主体的に満足感をもって遊ぶという視点から、一人一人の心が満たされているか、満足感をもって遊んでいるかをより深く捉えようとするようになった。

重点領域5		地域との連携、子育て支援			
項目	努力指標（教師側）	達成度	成果指標（こども側）	達成度	評語
1	・教育内容が伝わるようにクラスだより、ホームページの更新（週1回）、写真掲示等を行うと共に、幼稚園の良さを保護者、地域に発信し園児数増加を目指す。	92%	・保護者アンケートの「幼稚園は教育方針や教育活動をわかりやすく伝えている」の肯定回答率が100%になる。	89%	B
2	・様々な人に支えられている気持ちをもてるように教育内容を工夫すると共に、教師も積極的に地域と関わり、地域の中にある幼稚園という意識をもつ。	78%	・様々な人に支えられているという気持ちを感じ、感謝の気持ちをもてる幼児が、80%になる。	85%	B
3	・保護者一人一人の話を丁寧に聴き、保護者の気持ちを受け入れながら信頼関係を構築し、共にこどもを育てているという気持ちを感じ合う。	86%	・保護者アンケートの「幼稚園は保護者の悩みを受け止め子育てについて共に考えようとしている」の肯定回答率が100%になる。	81%	B
<p><結果についての分析と改善策></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページ「こどもたちの活動」を毎週金曜日に確実に更新することができた。リアルタイムでこどもたちの幼稚園での様子や活動の意味等を発信できたことが教育内容を理解してもらうことに繋がった。 ・コロナ禍で地域に出ることが少なく、近隣の保育園、小中学校との交流もできなかった。意識的に“地域の中のなでしこ幼稚園”ということが感じられるような活動を工夫する必要があった。 ・保護者が抱えている不安や悩みは様々だと思うが、教員が気軽に保護者と話をする機会が少なく、保護者と十分コミュニケーションを図ることが難しかった。降園時等を利用し気軽に悩みや不安を話せるきっかけを作っていく必要がある。 					

- 【評語】 成果指標（こども側）の達成度に応じて決定する。
- A：90%以上（目標達成とみなし、次年度は新たな目標を設定する）
 - B：50%以上90%未満
 - C：50%未満（目標や努力指標等を見直す）